

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173800432		
法人名	ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	加須グループホームそよ風		
所在地	埼玉県加須市平永939-4		
自己評価作成日	令和3年3月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若年性認知症や癌の末期等、色々な状況下の認知症の方に対応できる施設として機能するように職員の認知症に対する理解・介護職としての医療知識等の教育に力を入れている。予防から生活リハビリ・看取りまで、利用者の多様性に一人でも対応できるように施設内研修を繰り返し行っている。また、多職種協働によるチームケアが出来る職員の育成にも力を入れている。現在でも質の高い看取りの実施が出来るように努めているが、以前にも増し医療連携も充実。往診医・訪問看護師・管理薬剤師・訪問歯科・訪問リハビリ等との連携は勿論、開設15年の信頼関係で外部との医療連携のパイプも太くなった。また、連携先への受診は全て無料にて施設で行っている。認知症の皆様の本当の意味の終の棲家になるように、医療連携に特化した愛情ある支援に取り組んでいる施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・全てにチームとして取り組まれ、さらに教育にも力を入れ、特に「看取り」については事業所が目指す「上質な看取り」を「心で教える」ことに努められている。さらに感染症予防対策についても、家族や運営推進会議の参加者、そして職員に対しても、それぞれに事業所の取り組み姿勢を打ちだし、高い評価と信頼が得られている。  
 ・運営推進会議は、書面報告をもとに、市担当者と管理者とで会議を行い、事業所の運営について意見やアドバイスも得られている。身体拘束廃止委員会議事録に関することや感染症予防対策についても報告されている。  
 ・目標達成計画については、令和元年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策において、緊急職員招集訓練の実施や水害時の避難方法の確認をするなど、課題への対応が行われたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットのスタッフルームに掲示し、丸暗記するよりもその内容を理解して貰うように心がけている。「専門職としての自覚・地域への貢献・孤独ゼロ・家族との懸け橋」のように覚え、実践に結び付けている。	入居者・家族の心の懸け橋を目指し、家族との連携を大切にしたい理念のもと、支援が行われている。専門職としてプロの意識を持つようチームワーク作りと教育の充実に努められ、レベルの高いケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の観点から、今期は交流の機会がほとんど無いが、天気の良い時には近隣を散歩し遠くから挨拶したり、地域の民生委員の方から柚子を頂いたりする程度の繋がりになっている。	地域とのつきあいは現状限定的であるが、民生委員の方などには玄関まで来所され、地域の様子を教えてくれたり、事業所のPRも行っていたりしている。また、退去された入居者の家族との縁も続き、地域に密着した運営が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の施設では難しいと言われた方の相談が増えている。満床で待機も居られご入居は難しいが、お話を聞いて差し上げるだけでも「気持ち became 楽になった。分かって頂けて嬉しい。」と再び電話相談になる事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面提出で行う会議が多かった。市の担当者とCMとで報告や連絡事項の確認が行われた。ご利用者やご家族との問題は無かったが、面会出来ない事への理解に取り組む時間が多かった事も報告した。	現在は書面報告をもとに、市担当者和管理者との会議を行い、事業所の運営について意見やアドバイスも得られている。身体拘束廃止委員会議事録に関することや感染症予防対策についても報告されており、今後は従来の参加者への文書配布を行うことが検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組事項の報告は変わらず行われた。県から陰圧室設置の補助金等については、加須市では唯一当施設だけが2部屋設置。県の管轄ではあるが質問などには協力的に対応して頂けた。	陰圧室の設置への補助や給付金や助成金、備品の配布などの情報はスムーズで連携が図られている。特に「看取り」に関する事業所の取り組みは市役所からの期待もあり、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解する取り組みは、3か月に1度の決まった時だけでなく、施設内研修でも行い、気がつかない拘束の事例を多く取り上げた。また、職員がお互いに注意できる声掛け実施に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期的開催し、「認知症の方に対する身体拘束」に焦点をあて、身体拘束によって起こる弊害についてなどを研修されている。目に見えない言葉による拘束にも気を配り、当たり前のことを当たり前に守るよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染予防でのストレスが、通常の介護に加えて増えたことは自覚していた。その上で、気がつかないイライラで利用者に接したりすることが有る事も理解し、お互いに注意しあえる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一般的に持っている知識ではないので、研修の機会が無いと中々理解することは難しいが、ご利用者とそのご主人が(行政書士を通じて)後見人制度を利用したことから、身近に理解できた職員も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わからない事や疑問点には丁寧に説明を加え、ご納得いただけるまで時間を惜しまず対応している。何よりも「いつでも何時でも」とお伝えしてお待たせしない対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が開催できない中、月間報告書に加えて手紙を添えて施設の情報を配信したり、LAINを使用して思いを伝えて頂けるように、またすぐに答えるように情報交換をし、それを職員と共有し運営に反映させている。	家族とのコミュニケーションを保つ取り組みとして月間報告書や手紙、介護情報の発信、LINEの利用など様々な工夫が図られている。また、写真なども多く用いて、家族との会話の材料にするなど、家族からの意見要望を出やすくするなどの支援も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	楽しく働ける環境作りを意識しながら、会議の機会だけでなく個別に対応し、しっかり個々の意見を聞き取り良い案は大いに取り入れ現場に反映させ、押し付けではない皆で作る楽しい環境を目指している。	職員は「入居者の居心地の良さ」を最優先に様々な意見やアイデアを出されている。イベント食も毎回同じではなく、違うメニューを取り入れたり、夜間勤務時に気づきを話したり、ラインを用いたコミュニケーションづくりを提案するなど、事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の契約更新時に、しっかりした面談を行い困っている事や悩んでいる事等を聞き取りそれに答えたり、日々の仕事での良い所や気づきに対して評価をし、本人にも自分の価値を知って貰う機会としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は勿論のこと、希望に合わせてリモート研修に参加、スキルを上げる喜びを感じて貰う取り組みをしている。また、必ず評価し本来の力以上のものを引き出すよう「やる気・本気」を培うことに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート会議という方法で、今まで顔を合わせる機会の無かった遠方の拠点の多くの職員が交流出来、他の施設の取り組みに刺激されたりし、その良い点を取り入れていく積極的な向上心が生まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めの一步が大切であり、その時に時間をかけしっかり傾聴し希望や不安を聞き取り、それに真摯に答える。その後もそれを繰り返してより安心や信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	沢山の時間を掛け、何度もお会いし強い信頼関係を築いてきたが、コロナの時期にご入居された方には、施設としても不足を感じている。電話やラインを使い、頻回に思いや意見の交換をし関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	総合的な広い視野でみる事を心掛け、一番必要な支援は何かを皆で出し合い、その人らしく楽しく無理なく生活できる支援を見つけていく努力をしている。社会資源の活用も大いに利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	看取りを行っている関係から、ご利用者様から多くの事を学んだ職員が多い。最期の時まで共に暮らす家族の観点からの関係を築いており、日々人生の先輩と捉えて尊敬する部分や愛情を見出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の愛情に勝るものは無い事を理解し、絆を継続できるよう支援している。質の高い支援を提供し、その絆を大切にご本人を支えるチームとしてご家族と協力し支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出が規制されており、厳しい状況であるが、電話での会話や、月間報告書、写真や動画を通して関係が切れないように努めている。テレビ電話も利用する機会を作るように努めている。	外出や出会いが制限される中、事業所内のケアの充実に取り組みまれ、昔懐かしい時代劇のDVDや懐メロをBGMにするなどの工夫が図られている。運動や歌など皆でやれることをプログラム化し、楽しかった思い出などを大切にしよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性は話し好きな方が多く自然に良い関係が生まれるが、新たに男同士の良い関係が生まれている。同じテーブルで乾杯しながらノンアルコールビールを楽しむ姿に、女性からも「仲良いね」と声を掛けることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在もグリーンケアは継続している。特にご入居期間が短くお看取りになったご家族には、長く寄り添うように心がけており、1年以上経った今でも庭で採れた蜜柑等を届けて頂いたり近況を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちを伝える事が出来る方も困難な方でも、言葉では表せない思いを受け止める事が必要である。繰り返しその受け止め方に間違いはないか、対応する全職員と意見交換(検討)を行っている。	「涙が出る」、「目を閉じる」や「手を握る、広げる」などの入居者の表情やちょっとした行為から気持ちを汲み取り、思いや意向の把握に繋がられている。また、散歩時や入浴時、夜間の会話などで新しい発見をすることもあり、個々のケアに取り入れられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に前CMとの引継ぎによるアセスメントや、積極的にご家族から暮らしぶり等のお話を伺うなど情報収集・把握に努め、できる限りその人らしく、望んでいる生活に近づけられる支援の検討を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝7時からラウンドを行い、一人一人の状況をしっかり確認、職員からの申し送りの共有をしている。急変時の対応も常に暮らしの現状把握が不可欠である。極力、その場でその都度の問題解決に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に担当者会議を行う。ご本人・ご家族・担当職員・嘱託医・薬剤師等の医療関係者も含まれ、それぞれの立場での意見を出し合い結論を導いていく。モニタリングは計画ごとに行っている。	入居者そして職員の思いを反映したケアプランの作成に取り組まれている。また、その時々「薬が増えた減った」などの情報や家族と面談して得られた要望も計画作成者によりプラン化され、職員全体にも周知されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテの導入により、細かく個別記録が付けられ職員間で共有する事も簡単になった。看取り期や薬変更後等には別に統計表での記録を付け、素早く多職種と情報を共有し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療に特化した施設になったが、既存の状態に甘えることなく、必要な支援があるならば、他へのご紹介や新たにサービスとして取り入れる事も行っている。例として通院リハビリや訪問リハビリを導入した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員児童委員の方のご協力で、外出できない状況下で、ご家庭にある「柚子・山菜・みかん」などを届けて頂き、季節を感じる事の出来る豊かな生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師や薬剤師と連携し、かかりつけ医に報告。またその結論や情報をご家族に報告・希望の聞き取り。その一連の流れや内容をかかりつけ医は把握し必要な医療を提供している。	日常的には協力医療機関の往診を受け、家族も立ち会って先生の指示や見解について説明をいただいている。新しく訪問リハビリも取り入れられ、入居者の現状に応じた支援ができるよう医療との連携が図れるよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のラウンドがあり、施設は全員の利用者様の現状報告を行っている。また、24時間の緊急時対応や相談にも応じて貰う事が出来る。医療への連携が必要とあれば指示が出る。職員が安心できる存在である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の相談員とは日頃から良い関係作りを行っており、入退院時には速やかな連携を取る事が出来る。退院の時期についても、施設への信頼が厚く、早期の退院が実現できている。医師会の医療連携室ともしっかりとした繋がりがあある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の時からご家族と重度化や看取りについての話し合い、その時点での気持ちも把握している。実際に医師からターミナルとの見解があるとプランを立て直し看取り同意書を頂き、社会資源の活用も含めた計画を立て、チームは統一した支援を行っている。	随時家族と話し合いを持ち、医師から今後予想される症状やリスクを説明され、家族がどうしたいのかを十分お聴きし、品格ある看取りを目指した支援が行われている。チームとして関わり、医療との連携もなされ、家族の安心にも応えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時や応急手当は何度も経験しているが、独断ではなく、必ず医療関係者に確認を取り実施し、口頭指示でも動けるレベルになっている。また、CMが24時間対応することになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修は一部の人間に限られるが、その勉強会の内容を全職員に伝達している。また、水害・火災・地震等の訓練も行っており、役割分担も行動も明確になっている。ご家族・職員・近隣の緊急連絡網作成済み。	定期的な訓練、ハザードマップの確認に加えて、役割分担や緊急連絡網などを常に職員へ周知するよう取り組まれている。火災だけでなく、水害時の垂直避難の訓練も実施され、近隣の店やガリンスタートへの連携呼びかけも行われている。	新しい職員を含めた事業所全体の防災意識の向上は大切であると想定されることから、訓練を繰り返し行動の平準化と習慣化を図る取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い間認知症と共に生活している方が多いので、表現力の低下が顕著。言葉で表現できない方には特に気を付けて心を読み取る努力をしている。プライバシー・プライドを認識したケアでの対応を心がけている。	「発語が難しい」、「車いすが常時必要」など、自分の表現力が低下してきた入居者にこそ、一人ひとりへの尊重の大切さを職員が理解し支援が行われている。入居者の「心」を読み取るケアにより羞恥心などへの対応もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夫婦や親子のように毎日共に生活していると、考えている事ややりたい事がおのずと分かりますが、私達も同じで、ご自分で希望や思いが言えるように・表現できるように色々な事を想定し質問をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての方にそれぞれの思いがあり、生涯変わらない部分と変化していく部分とがある。そのどちらにも合わせる事は、その人を知りそして気付く事である。それを支援に結び付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容が入れないので、職員が全員の髪を希望を聞きながらカットしている。施設内の行事も増やしたので、綺麗な服を着て記念写真も多く撮り喜ばれている。その日にはご自分で服を選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は行事を増やしておりケーキやお菓子が楽しみの一つになっている様子。感謝をお伝えしながら配膳や片付けや洗い物などお手伝いして頂いている。職員に褒められる事や一緒に行う事が楽しみな様である。	米や野菜、果物などは地産地消にこだわり、決められたメニューへのひと工夫が加えられている。入居者はそれぞれの役割で食事の準備や片付けに関わり、「ありがとう」、「助かります」と言葉で伝えることで入居者の喜びにも繋がられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護度が高く飲食は個別対応が殆どの状況である。特に水分は乾燥の強い時期なので、問題の無い方には1500cc以上を提供。他は医師の指示により提供している。入浴後の水分もしっかり提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに応じた口腔ケアを行っている。一部介助の方には確認し磨き残しをなくすように支援。全介助の方には、声掛けをし不快な状況にならない支援に取り組んでいる。月2回訪問歯科医が管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄表で記録し、排泄パターンをすべての職員が把握できるようにしている。オムツを減らし、いつまでもトイレで気分よく排泄できるよう支援している。その為立位保持の生活リハビリでの支援も行っている。	立位が取れる限りトイレでの排泄にこだわり、車いすの方でも自立を目指し、訪問リハビリ導入により、立位保持や拘縮予防に繋げるよう取り組まれている。「オムツ使用までの時間を長くする」を目標に夜間はポータブルトイレを利用し、安易にオムツに頼らないケアに努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が難しい方が増えており、足上げ体操や腹部マッサージ等の便秘解消運動を職員が覚えて実施している。水分もしっかり摂取して頂き、それでも難しい場合は、なるべく下剤でなく浣腸を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調が優先される入浴になる。バイタルに問題なく体調が良い場合は、午前・午後の好きな時間帯に入浴して頂く。また寝たきりの方でも、2～3人で対応して入浴を可能にしている。	安全、安心の入浴を目指し、職員3人での介助やヒートショック対策、健康状態のチェックなどに注意した支援が行われている。衛生管理にも気を配り、週2回の入浴以外にはシャワーなどで陰部洗浄をこまめに行うなどのケアに取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師から加齢による傾眠との見解が出ると、その方のリズムに合わせて静養を取り入れる。また、それが夜間の睡眠に影響が出ないように、職員はしっかり時間と様子を記録して睡眠の管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師は往診医と連携し内服薬の管理をし、CMは週1回薬剤師とカンファレンスを実施(頓服処方時は随時)、薬の内容や起こりうる副作用を職員に伝える。伝え漏れが無いように一斉メールを利用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをして頂き感謝を伝えると笑顔が溢れる。洗濯物を畳んで頂いたり食器を拭いて頂いたり、毎日楽しそうに軽作業に集中。男性の利用者お二人は、毎日ノンアルコールのビールを楽しんでおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防で、外出支援はほとんど出来ていないが、天気の良い日には車いすや独歩で散歩に出かけている。また、隣のオーナーの家で犬や鶏を飼っており、それを観に行くことも好評である。ご家族には写真で報告。	人ごみを避けて、歩ける人は散歩に出かけ、また、外の広い場所でマスクをして家族と面会するなどの支援が行われている。コロナ禍だから何もできないではなく、今後のやり方を職員が皆で考え、工夫する取り組みも見られる。	



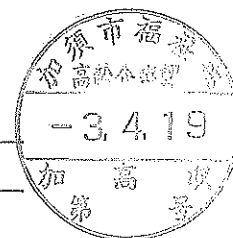
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は一緒に買い物に出かけるような支援が出来ない状況であり、能力や希望があっても叶える事が出来ず、本当に悲しい状況である。職員がご本人に希望・必要があれば購入してきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的なお電話を頂いたり、お手紙を頂く事が増えている。お電話を繋いだりお手紙を読んでお聞かせしたりする。面会が出来ない状況の中、楽しみの一つである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい空間を作る努力をしている。また、随所にある飛沫防止のシートには花の絵を描いたり、緑の観葉植物の絵を描いたりして、重い空気にならないように心がけている。また、テーブルに花を飾ったりと外に出られないストレス解消の工夫している。	入居者のための環境づくりを大切に、猫の世話をする役割を設けたり、好き嫌いや言葉使いに配慮した席順にするなど、居心地の良さを感じていただいている。また、相談室に滅菌装置を入れ、新しく入居された入居者や看取りが近い方などの面会に使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人が好きな方も居られ、居室を利用されたりフローアのソファでくつろがれたり、自由に移動されている。また、スタッフとしての猫がおり、猫のいる場所で横になったりと皆さま思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時から立派なお仏壇をお持ちになった方も居られたり、沢山の写真を飾り華やかなお部屋にしたり、ご自身の作品や職員が描いた壁画を気に入り飾ったり、好みの個性的なお部屋が沢山ある。	それぞれのこれまでの習慣を大切に、危険がないものは自由に持ち込まれ、毎日、仏壇の水を変えてお参りされる入居者もおられる。テレビやラジオを持ち込まれ、好きな番組を楽しまれたり、「ノンアルコールビール」をたしなむなど、居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	近年はご自分で自由に動ける方も少なくなりました。しかし、自立に近い方が動きやすいように掲示物を増やしたり、フロア一間の連携でお使いをお願いしながら、分かり・出来る事の継続を維持している。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:加須グループホームそよ風

作成日:令和 3年 4月 19日



目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新しく入職したスタッフへ、時期により当施設での災害対策に対する取り組みの説明がなされていない現状があった。	入職時のオリエンテーション時に、施設としての災害時の取り組みの詳しい内容を追加する。	新入植者向けに火災・水害・地震時の対応についての実施マニュアルを作成し、配布したうえで対策チームの一員として加入してもらう。	12ヶ月
2	21	現在の状況では外出支援は簡単ではない。そのような状況の中での楽しみの一つにレクリエーションがあるが、動のレクリエーション・集団のレクリエーションが少ないと感じている。	どの職員も、集団で行えるレクリエーションの内容を充実させて、時間に捕らわれず毎日なんかしらのレクリエーションが実施出来るようになる。	職員研修の中に集団で出来るレクリエーションを取り入れたり、誰でも笑える単純な内容のDVD鑑賞(例えばドリフターズの単純な動きの面白さ)等、どんなレベルの利用者様にも実施出来る、心身の動のレクリエーションに取り組む。	6ヶ月
3	50	介護度の低い入居者様も増えたことも有り、コロナ禍とはいえ外出支援や買い物支援が必要(不足)と感じている。	コロナの状況も踏まえながら、月に2~3回は安心して出かけられる場所や時間を見つけて外出(散歩やドライブ)を支援実施していく。	車を利用してのドライブや、その時に人がいない・極端に少ない場所で降りて散歩をしたり、近隣の田畑の中を職員と一緒に出掛ける取り組みを意識して行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。